

# 言語が移り変わっていく理由

松山周正 23B21665  
東京工業大学物質理工学院

## 1. はじめに

Research Question: 言語が移り変わるの、各時代に言語のインフルエンサーがいるからか。

私は言語が「媒体」に乗って伝わっていくと考えた。例えば小説。好きな作家の作品を読み続けると、作家と似たような言葉遣いになる。このように人の言葉遣いは、何か媒体を通じて人に伝わる。そのため大きな影響力を持つ人間の言葉遣いはより多くの人に伝わり、言語が変わるほどの役割を果たすのではないかと感じた。これを実際に確かめる。

## 2. 方法

これをアンケート、論文を用いて検証する。  
アンケートの内容はこうである。

- あなたの言葉遣いは誰かに影響されていますか？
- されているなら誰からですか？
- (Research Question)に賛同しますか？

また論文はGoogle scholarにて調べる。

## 3. 結果

Q1: あなたの言葉遣いは誰かに影響されていますか？

54人中52人が「はい」と答えた。  
多くの人が言葉遣いに影響を受けている事がわかった。

Q2: 自分の言葉遣いに影響を及ぼした人は？

	人	%
YouTuber	23	43.3
親	16	30.2
友達	10	18.9
芸能人	3	5.7
その他	1	1.9

YouTuberから影響を受ける人が多かった。  
身近な人からだけでなくSNSなどのインターネットが我々の発達に対しても影響を与えるほど身近なものになっていると考察することができる。

Q3: (Research Question)に賛同しますか？

これに対しては、54人中35人が「はい」、13人が「どちらともいえない」、6人が「いいえ」と答えた。  
賛同する人が多い事から過去の時代にも小説家や芸能人、歌手などが人々の言葉遣いに影響を与えていたと考える人が多い事がわかる。

## 4. 考察

以上の結果より、一般的に現代の若者はインフルエンサーによって言葉遣いに影響を受けることがわかった。ここから考えられることに言語は主に人から人に伝わっていくものであり、時代によってその媒体が異なるということだ。明治の頃なら小説、昭和平成ならラジオテレビ、そして今ならYouTube、TikTok、Twitterである。また、この言語の伝わり方は、方言に似たようなものがあると感じた。柳田国男は「蝸牛論」という考え方をしたが、これは明治時代のことであり、人伝いが言語の伝達の基本だったので、同心円状という結果だったが、現代はインターネットで点と点、1人と1人がつながっていく時代である。そのためこれからの時代の言語の変遷は早いと考えた。

また丹羽一彌(1986)の「年齢別方言資料に見られる言語変化では明治30年から昭和47年の約70~80年ほどの和歌山県熊野川町での方言の変化について調べている。ここでは、「地域のある語形Aが語形Bに変化するまでに、A→AB→Bという過程を経る」と書かれており、ちょうど70年ほどかかると述べられている。すなわち、インフルエンサーの言葉遣いが新しい日本語を形成するまでに、私たちの次の次の世代にまで時間がかかるということである。しかしながら、インターネットの変遷はとて早く、この論文は方言のそして時代も1世代前のものであった。そのため、現代の言語の移り変わりはより早く行われていると考えられそうである。

## 5. おわりに

「言語が移り変わるの、各時代に言語のインフルエンサーがいるからか」という問題に取り組み、アンケートと文献から「是であり、多くの最近の若者はyoutuberから影響を受けている」という結果、「現代の言語の変遷は、蝸牛考的ではなく点と点でつながっていくのではないか。そして今までよりも早いスピードで言語が変遷していくのではないか」という考察を導いた。

文献:  
丹羽一彌(1986) 年齢別方言資料に見られる言語変化